

飛騨高山教育旅行

事前学習用ガイドブック



きつと

この青空のような

素敵な旅に出逢えます

発行・編集

高山市

飛騨高山観光客誘致推進協議会

高山市商工観光部観光課

〒506-8555 岐阜県高山市花岡町 2-18

TEL : 0577-32-3333 (代)

FAX : 0577-35-3167

H P : <http://kankou.city.takayama.lg.jp/>

(2020.06)





1 高山市の概要



位置

高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、周囲を飛騨市、下呂市、郡上市、白川村、長野県、富山県、石川県、福井県に囲まれています。

地理・地形

市域は東西に約81km、南北に約55kmあり、面積は2177.61km²の日本一広い市です。面積の92.1%は森林で占められ、山、川、溪谷、峠などが多く、標高差も2,700mを超えるなど、地形的に大きな変化に富んでいます。東部には槍ヶ岳、乗鞍岳、穂高連峰などの飛騨山脈（北アルプス）を擁し、南部には御嶽山、西部には白山が望めます。

気候

海拔の高いところが多いため、東北地方北部や北海道南部と似て、夏でも夜は涼しく、冬は雪が多く厳しい寒さとなります。全体的には内陸性気候で、昼と夜、夏と冬の気温差が大きく、湿度は低くなっています。

基本情報

- ・面積：2177.61km²
- ・人口：87,354人（平成31年高山市人口統計資料より）
- ・世帯数：35,753世帯（平成31年高山市人口統計資料より）
- ・標高：573m（高山市役所本庁所在地）
最高地点3,190m（奥穂高岳）
最低地点436m（上宝町吉野）
- ・市制施行日：昭和11年11月1日

・市章：



・市の花：コバノミツバツツジ



・市の木：イチイ



山の都を象徴する「岳」の形象体文字を図案化したものです。

野山に生える落葉樹で高さ2～3mになります。よく枝分かれして、枝先に葉が輪のようにはえ、4月から5月ごろ、葉が開く前に1つの枝に1個から3個の紅紫色の花を咲かせます。

常緑針葉樹高木で高さ10～15mになります。名前の由来は、この木で作った笏を朝廷に献上したところ、他の材で作られたものより美しく質が高かったので、正一位という最高の位を与えられたという説などが伝えられており、一位一刀彫の材料として用いられます。

目次

1. 高山市の概要	3
2. 歴史	4～7
3. 文化	8～17
①高山祭	8～11
②古い町並	12
③風習	13～15
④代表的な文化施設	16～17
4. 自然（各地域の紹介）	18～21
5. 産業	22～25
①観光業	22
②工業	23～24
③農業	25
6. 郷土の味	26～27
7. 体験プログラム	28～29
①農山村体験	28
②各種体験	29
8. 高山市全域図	

2 歴史



■ 縄文～古墳時代 ■

高山市内には縄文時代の遺跡が多くあります。1万年前に使われた有舌尖頭器^{ゆうぜつせんとう}や8千年前の押型文土器^{おしがたもん}が発見され、かなり古くから人が住んでいたことがわかります。

また、市内にある遺跡の中でも久々野町の堂之上遺跡^{くぐのちようどうのそら}は国の史跡に、片野町の糠塚遺跡^{かたの}から発掘された浅鉢形土器^{あさばちがた}は国の重要文化財に指定されています。

飛騨地方では古墳時代中期から古墳が多く造られるようになりました。この頃の古墳には、甲冑が発見された国府町の亀塚古墳^{かめづか}のほか、冬頭町の冬頭王塚古墳^{ふいとうおうづか}、県の史跡に指定されている赤保木町の赤保木古墳群^{あかほぎ}などがあります。古墳時代後期には、県の史跡に指定されている国府町のこう峠口古墳^{こうふちようとうげぐち}をはじめ、三福寺町の小丸山古墳^{さんぷくじまちこまるやま}、西之一色町の岩屋古墳^{にしのいっしきまちいわや}、国府町^{かぐえ}の海具江古墳群^{うみぐさ}などが造られました。終末期の横穴墓も発見されています。



堂之上遺跡



両面宿儺像

～ 両面宿儺 ～

文献に初めて登場する飛騨のできごとは、両面宿儺の乱です。「日本書紀」によれば、身体が1つで2つの顔と手足を4本ずつ持つ怪物宿儺が朝廷の命令に従わなかったため、仁徳天皇65年（377年頃）、將軍難波根子武振熊^{なにわのねこたけふるくま}によって討伐されたといわれています。丹生川町の出羽ヶ平^{にゅうかわちやうでわがひら}にある鍾乳洞に住んでいたという伝説があり、丹生川町の千光寺^{せんこうじえんくう}には円空彫刻などの宿儺像がまつられています。

■ 飛鳥・奈良時代（飛騨の匠） ■

大化の改新によって税制が確立しましたが、優れた木工技術をもつ飛騨は1年に250～300日間、都へ行って宮殿や寺院などを造る大工仕事が課せられ、納める織物などは免除されました。家50戸ごとに10人ずつ割り当てられ、飛騨からは毎年100人前後の匠が出役したようです。優れた技術を持つ飛騨の匠の手により立派な建物ができ上がっていきました。しかし、中には仕事が苦しく逃げ出す人もいたようです。

～ 日本遺産「飛騨匠の技・こころ一木とともに、今に引き継ぐ1300年」(平成28年4月認定) ～

「かにかくに物は思はじ飛騨人の打つ墨縄のただ一道に」… この「万葉集」の歌は、飛騨の匠が墨縄で付けた一本の線に、作者が自らの一途な恋心を重ねたものです。万葉集がつくられた奈良時代、すでに飛騨の匠がよい腕を持った大工としての代名詞であったことが伺えます。匠の技とこころは1300年後の今も脈々と引き継がれています。

奈良時代になると伝染病が流行し、各地で飢饉が起こって、人々は不安な毎日を送っていました。そこで、聖武天皇は仏教の力を借りて人々の不安を鎮め、国を守るため、各地に国分寺を建てるよう命じました。

高山の国分寺には奈良時代の塔の礎石が今も残っています。当時の建物は残っていませんが、現在の本堂は500年以上前に建てられたもので、国の重要文化財に指定されています。

また、境内にそびえたつ大きなイチヨウの木は国分寺建立のときに植えられたものと伝わっており、国の天然記念物に指定されています。



飛騨国分寺の三重塔と大イチヨウ

■ 平安時代～室町時代 ■

平家が天下を握ると、飛騨は平家の領国になりました。その中心は現在の三福寺町といわれ、三仏寺城^{さんぷくじまちさんぶつじじょう}が築かれました。また、鎌倉時代には、政治の中心が現在の国府町である広瀬郷^{ひろせごう}や荒城郷^{あらかごう}に移ったと考えられています。

室町時代の終わりに、高山外記^{たかやまげき}が、現在の城山である天神山^{しんじんやま}に城を築きました。そのため、高山外記の城の近くを高山と呼ぶようになったと伝えられています。

その後、南飛騨で勢力を持っていた三木氏^{みつぎ}が高山へ進出し松倉城^{まつくらじょう}を築きました。しかし、豊臣秀吉に従わなかった三木氏は、秀吉の家来であった金森長近^{かなもりながちか}に滅ぼされてしまいました。



城山公園の金森長近像

■ 金森氏による藩政時代 ■

天正14年（1586）、三木氏を滅ぼして飛騨に入国した金森長近^{かなもりながちか}は、飛騨国3万3千石の国主となりました。長近は、当初、漆垣内町の鍋山^{なべやま}に城を築くことにしました。城の建設は天正16年（1588）から始まり、13年間で本丸、二之丸を完成させ、その後3年間で三之丸が築かれました。日本国中に5つとない見事な城であったと記録が残っています。

城の建設と同時に城下町の整備も行なわれています。城を取り囲むように高台を武家地とし、一段低いところを町人の町としました。また、東側の山裾には寺社を移築・建立しました。

重要施策としては商業の振興、鉱山資源や山林資源の開発があります。関ヶ原の合戦時には、表石高の倍近くになる6万石あまりの軍役が負担できたともいわれ、4代の頼直^{よりなお}は江戸の大火の際に檜の角材1,000本を献上しています。

金森氏の時代は6代107年間続きましたが、元禄5年（1692）7月28日、頼直の時代に突然、出羽国上山^{でわのくにかみのやま}（現在の山形県上市市）に国替えとなって、金森氏による政治は終わりました。



高山城復元推定図

■ 幕府直轄地（天領）時代 ■

金森氏が国替えされた後の飛騨は幕府直轄地となり、代官は関東郡代の伊奈半十郎忠篤^{いなはんじゅうただあつ}が兼任、金沢藩主の前田綱紀^{まえだつなりのり}が高山城在番を命ぜられました。元禄8年（1695）1月12日、幕府から高山城破却の命令が出され、同年4月22日から取り壊しを開始、6月18日には全てを終えて帰藩しました。幕府直轄時代は25代177年間続き、江戸から来た代官（12代からは郡代）が高山陣屋で政治を行いました。

明和8年（1771）、大原代官が幕府の命令で飛騨の全ての山について官材の元伐^{もとぎり}を中止し、安永2年（1773）には飛騨の村々の代表を集め、検地のしなおしを言い渡すと、田を少ししか持っていなかった飛騨の農民たちは、厳しい年貢がさらに



高山陣屋

2 歴史



厳しくなると、越訴、駕籠訴などをして検地中止を願い出ました。これが明和8年(1771)から寛政元年(1789)までの大原父子2代、18年間にわたる大原騒動と呼ばれる農民一揆です。

一方、善政をつくした代官・郡代もいます。7代長谷川忠崇は「飛州志」を著しています。8代幸田善太夫は飢饉対策のために馬れいしょ(ジャガイモ)を農民に作らせ、飛騨では「善太夫いも」、「せんだいも」と今も呼んでいます。19代大井帯刀は天保飢饉の際に、飛騨はもちろん出張陣屋(越前本保)領内でも救済措置を講じました。20代豊田藤之進は、草焼を起こし養蚕を盛んにしました。

また、幕末三舟の一人で剣や書の達人として知られる山岡鉄舟は、父が21代の郡代として高山へ赴任したため、一時期を高山で過ごしました。高山陣屋前広場の北側には、鉄舟の青年期の銅像が立っています。

明治以降

明治元年(1868)5月に飛騨県がおかれ、同年6月に高山県となり、さらに明治4年(1871)筑摩県に移管されるまでの3年6ヶ月間、梅村速水、宮原積の二人の知事により飛騨が治められました。また、明治9年(1876)、美濃と飛騨を合わせた岐阜県が成立し現在に至っています。

町村制は、明治8年(1875)に高山一之町村、二之町村、三之町村が合併して高山町になりました。当時、岐阜県では一番大きい町でした。

その後、明治22年(1889)に新しい町制が実施され、大正15年(1926)に灘村を合併、昭和11年(1936)に大名田町を合併して高山市になり、市制を施行しました。また、昭和18年(1943)に上枝村、昭和30年(1955)に大八賀村を合併しています。

そして、平成17年(2005)2月1日、丹生川村、清見村、荘川村、宮村、久々野町、朝日村、高根村、国府町、上宝村の9町村と合併して現在の高山市に至っています。



明治28年から昭和43年まで町役場・市役所として使用された高山市政記念館

高山市の歴史年表

■ 縄文～古墳時代	紀元前	糠塚遺跡、堂之上遺跡
	377年頃	両面宿儺の乱
	5世紀	亀塚古墳、冬頭王塚古墳ができる
■ 飛鳥・奈良時代	646年	飛騨に国司、郡司がおかれる
	8世紀	国分寺が建つ
		飛騨の匠が都へ
■ 平安～室町時代	1181年	木曾義仲が飛騨に攻め入る
	1334年	姉小路家綱が飛騨国司になる
	1347年	安国寺が建つ
	1408年	安国寺の経蔵が建つ
	1504年	高山外記が天神山に城を築く
	1579年	三木自綱が松倉城を築く
■ 金森氏による藩政時代	1585年	金森長近が三木氏を滅ぼす
	1586年	金森長近が飛騨国主になる
	1588年	高山城の築城、城下町の整備が始まる
	1692年	金森氏が出羽国上ノ山に国替えとなる
■ 幕府直轄地(天領)時代	1695年	幕府の命により高山城が取り壊される
	1771年	大原騒動が始まる
■ 明治以降	1868年	飛騨県がおかれ、その後高山県となる
	1871年	高山県が筑摩県に入る
	1875年	高山一之町村、二之町村、三之町村が合併して高山町になる
	1876年	岐阜県に編入される
	1926年	灘村と合併する
	1934年	高山本線が全線開通する
	1936年	大名田町と合併して高山市になる
	1943年	上枝村と合併する
	1948年	乗鞍登山バスの本格運行が始まる
	1955年	大八賀村と合併する
	1968年	国道41号線が全線開通する
	1973年	乗鞍スカイラインが開通する
	1978年	平湯トンネルが開通する
	1997年	安房トンネルが開通する
	2005年	9町村と合併して現在の高山市になる
2008年	東海北陸自動車道が全線開通する	

3 文化



① 高山祭

■ 高山祭の起源と特徴 ■

高山祭は、毎年4月14日・15日に行われる日枝神社の山王祭と、10月9日・10日に行われる櫻山八幡宮の八幡祭の2つを総称しています。祭の起源は金森氏の時代(1585～1692)にさかのぼります。また、今のような屋台(祭用の山車)のある祭は、文献によると享保3年(1718)頃から始まりました。

屋台の形態や構造が整い、豪華なものになったのは文化、文政(1804～)の頃からです。社会生活の単位団体でもあった屋台組が自分たちの組の屋台を宝として、強固な団結のもとに祭礼、修理、保存をしてきました。また、屋台が火災や破損によって改修されるたびに、他の組の屋台に負けまいと凝った意匠が考案され、形態も少しずつ変わりました。

幕末になると、財力を持った旦那衆と呼ばれる豪商が中心となって屋台の改修に金を出し、屋台造りの工匠たちの技を競わせました。屋台はますます絢爛豪華になり、全体の形の美しさを誇るもの、金具、漆工、織物に重点をおくもの、彫刻や車に特徴を持つものなどが作られるようになりました。独自の美しさを競い合った飛騨人の意気が、そのまま屋台に現われ、高山の誇りとして大切にされています。

また、昔は屋台を分解してから分散保管をしていましたが、屋台が大型になるにつれて、そのまま保管できる屋台蔵が造られるようになりました。屋台蔵の扉の大きさは、片方で幅1.3m、高さ6m、厚さ30cmもあり、重さは数トンにもなりますが、造られてから200年近くたった今でも、重みによる傾きやくるいが出ていません。

■ 屋台の修理 ■

屋台の修理には、職人の優れた技術と多額の費用が必要です。高山祭の屋台は国の重要有形民俗文化財に指定されており、修理工程は江戸時代と同様に行なっています。また、費用は、国50%、市40%、屋台組10%の割合で負担していますが、屋台組の負担はそれでも大きなものです。しかし、自分たちの屋台を良くしたいという屋台組の人たちの熱意によって屋台と祭りが支えられています。

〈最近修理した部分の値段〉

- ・屋台の見送幕(人間の爪で織る綴錦) 1.5m × 2.5m 1枚 1,500万円～2,500万円
- ・屋根の漆塗りかえ 200万円～400万円
- ・房 大きいもので1本15万円～40万円 小さいもので2万円～5万円
- ・車、車軸、車をささえる木製の台輪など 一式900万円

■ 旦那衆 ■

高山には、かつて旦那衆と呼ばれる豪商がいました。江戸時代中期には大名にお金を貸すなど巨大な財を成した商人です。また、商人であると同時に大地主として財力を保ちつづけた旦那衆も多くいました。現在、市内には旦那衆の残した遺産がたくさんあり、代表的なものは、豪壮な町家と豪華な屋台です。



春の高山祭(山王祭)

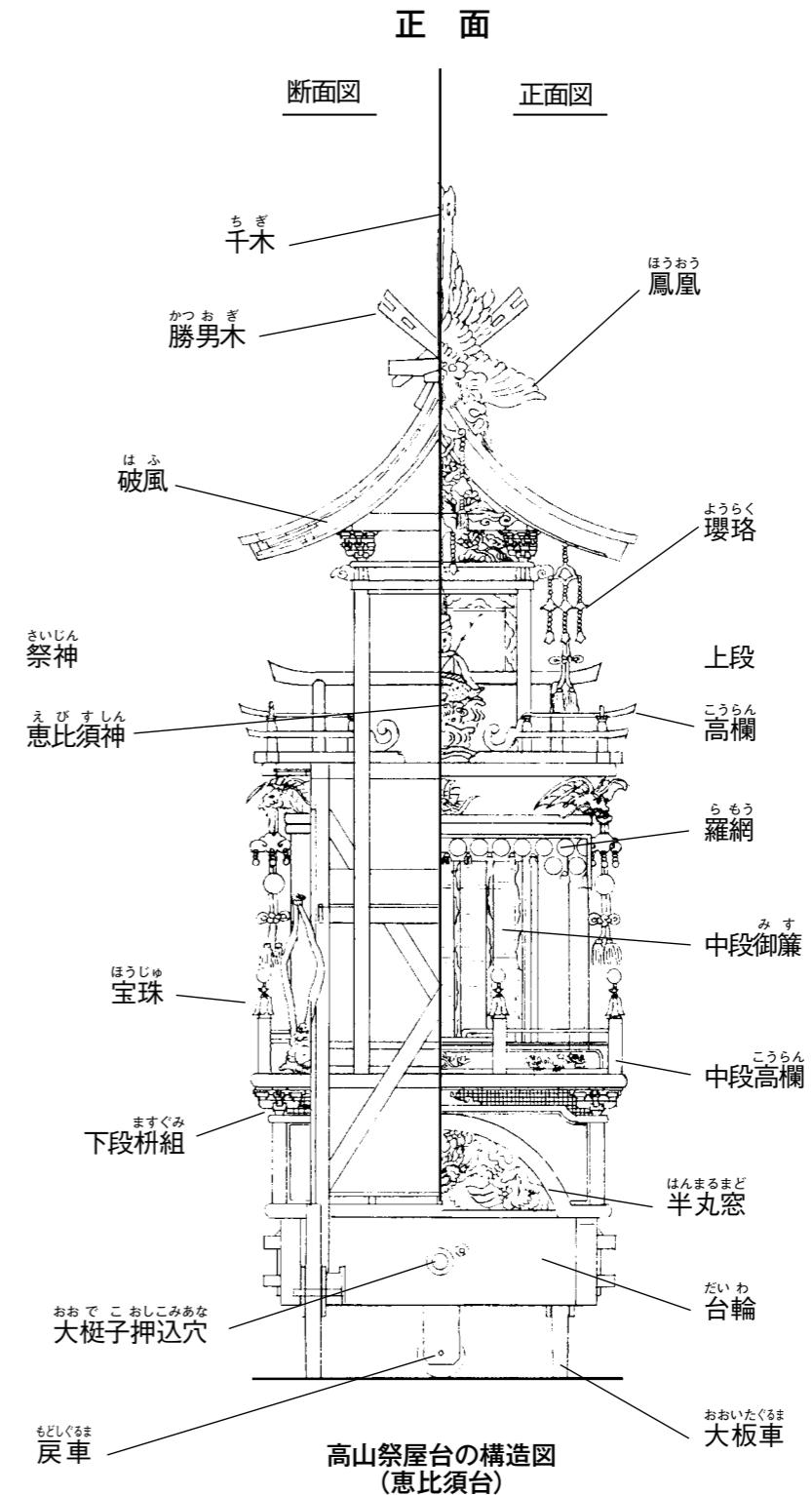


秋の高山祭(八幡祭)

■ 「高山祭の屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に ■

「高山祭の屋台行事」を含む日本の「山・鉾・屋台行事」33件が平成28年12月1日、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。ユネスコ無形文化遺産とは、芸能(民族音楽・ダンス・劇など)、儀式、祭礼など無形の文化遺産を保護するために、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」を策定し、その保護を進めようとするものです。

■ 屋台の構造 ■



高山祭屋台の構造図
(恵比須台)



■ 屋台の特徴 ■

〈山王祭の屋台〉

- 神楽台 : 屋台行列の先頭で屋台囃子を奏でる
- 三番叟 : 三番叟(能・謡曲)のからくり人形
- 麒麟台 : 飛騨の名工谷口与鹿による唐子遊びの彫刻
- 石橋台 : 石橋(長唄)のからくり人形
- 鳳凰台 : 麒麟の彫刻、屋根の鉾
- 五台山 : 円山応挙が下絵を描いた刺繍幕、獅子の彫刻
- 恵比須台 : 谷口与鹿による手長、足長などの彫刻
- 龍神台 : 龍神(謡曲)の舞のからくり人形
- 崑崗台 : 屋根の金幣、金塊を表したかぶら形の宝珠
- 琴高台 : 中段に鯉の彫刻、鯉の刺繍幕
- 大國台 : 屋根が揺れやすい構造、正面に出入口あり
- 青龍台 : 入母屋造りの屋根、金森家家紋の梅鉢紋金具



夜祭(山王祭)

■ 屋台の特徴 ■

〈八幡祭の屋台〉

- 神楽台 : 屋台行列の先頭で屋台囃子を奏でる
- 布袋台 : 布袋と唐子のからくり人形
- 金鳳台 : 初期の屋台の風格をもつ形態美
- 大八台 : 大八車三輪、屋根の前後に大金幣束
- 鳩峯車 : 綴錦織の胴幕、立派な見送幕
- 神馬台 : 神馬の人形、胴幕に般若の大きい刺繍
- 仙人台 : 唐破風の屋根、仙人の人形
- 行神台 : 正面に出入口あり、役の行者の人形
- 宝珠台 : 屋根に1対の大亀、水煙つき宝珠3個を飾る
- 豊明台 : 外側に御所車がつく、多様な装飾
- 鳳凰台 : 谷口与鹿とその弟子・浅井一之が彫ったとされる獅子の大彫刻



布袋台のからくり奉納(八幡祭)



3 文化



② 古い町並

高山市三町伝統的建造物群保存地区 (国選定 昭和54年2月3日 約4.4ha)
高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区 (国選定 平成16年7月6日 約6.6ha)

■ 金森長近の城下町づくり ■

飛騨を治めることになった金森長近は、それまでの豊富な経験を生かし、経済基盤のしっかりとした城下町づくりを目指しました。この城下町の中の商人町の一部が、現在、古い町並として受け継がれています。

長近が造った城下町はどのような町だったのでしょうか。

長近はまず、現在、城山と呼ばれている山に高山城を築きました。領主は高い所に居住するという考え方があり、長近も山の上の本丸に住んでいたようです。城の周りには外敵から城を守るように家臣の屋敷群が置かれました。これらの屋敷群はほとんどが商人町より一段高い場所にあり、地元では現在その一部を「空町」「ソラ」などと呼んでいます。武士と商人の身分の違いを、住む場所の高さによっても明確にしていた。

商人町は武士の居住する台地より10メートルほど低い場所に築かれましたが、街道と直結し交通の便が良い場所でした。長近は武士の町も商人の町も2本の川で囲みました。現在は、江名子川、宮川と呼ばれ、旧城下町の景観形成に重要な役割を果たしています。

商人町はその後繁栄をつづけ、富と財産を築きあげました。しかし、身分制度が厳しく、豪華な町家を作ることはできませんでした。そのため表通りからは高さも低く、質素な住宅も兼ねた店舗が立ち並ぶこととなり、この商家群の一部が現在の伝統的建造物群保存地区となっています。

■ 町家の特徴 ■

高山の町家は、前側の屋根の高さは4メートル少しと大変低くなっています。屋根は道路の水路まで飛び出て、屋根から落ちた雨水がちょうど水路に落ちるようになっていました。それで、屋根の軒先がきれいに揃うこととなりました。

今は雨を受け止める雨樋が取り付けられ、各家の軒先はあまり揃わなくなりました。道路に面した部屋はミセといって商品を陳列する部屋ですが、80～90年位前に商店をやめたところが多く正面に格子が取り付けられました。この格子は、縦横の直線美が美しく、落ち着いた色調で、趣ある高山の町並みの特徴となっています。

内部は、南側のドジを通して土足のまま裏まで行くことができ、中庭を経て土蔵に至ります。土蔵は火災に強く、大事な家財道具をこの中に格納しました。元々、日本の民家は調度品や生活用具は土蔵に納めて、居室にはあまり物を置かないことが普通でした。また、土蔵は防火の役割を果たしていて、連続する土蔵の列は延焼をくい止める防火帯として効果があり、現在も大切にされています。



三町伝統的建造物群保存地区



下二之町大新町伝統的建造物群保存地区

③ 風習

■ 朝市 ■

高山には「陣屋前朝市」と「宮川朝市」という2つの朝市があります。文政3年頃(1820)までは高山別院を中心に開かれ桑市として栄えてきましたが、その後、自作の花や野菜を売る野菜市がはじめられました。

朝市の場所は、別院境内から弥生橋詰、中橋へとかわり、大正11年頃からは高山陣屋前に移るとともに、昼夜の野菜市が開かれるようになり、戦後、現在の朝市となりました。一方、宮川朝市は、別院前にありましたが、戦後、露天商も加わり、安川通りに延び栄えていきました。その後、宮川河畔に移り、現在の朝市となりました。

高山の朝市には、野菜、山菜、花、果物、漬物など季節感あふれるものやさるぼぼなどの民芸品が並び、四季折々の楽しみがあります。また、素朴で飾りけのない高山の方言に接することができるのも魅力です。

■ 絵馬市 ■

昔、農家では牛や馬の安全や、まゆがたくさんとれるように祈願して紙絵馬を高山の南西にある松倉山の松倉観音に奉納したり、直接、馬や牛をつれて安全を祈願しました。その紙絵馬を売るのが絵馬市です。「1千万両、2千万両」などといって「松倉相場(※)」で絵馬を売り買います。

奉納した絵馬を家の入口の壁に貼っておくと商売が繁盛し、家族が健康になるといわれ、今も玄関に貼っている店や家が多くあります。

また、絵馬を貼るときは「福」が逃げないように馬の頭を家の奥に向けて玄関の壁に貼るようにしています。

絵馬市は8月9日・10日を中心に、松倉観音、素玄寺、山桜神社などで開かれます。また、紙絵馬は岐阜県の郷土工芸品に指定されており、「飛騨の絵馬市の習俗」は、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されています。

※松倉相場…紙絵馬は1,000円のを1千万両、2,000円のを2千万両という松倉相場で売り買いされます。

■ 二十四日市 ■

旧暦では、正月用品を売る歳の市として、12月24日に開かれていましたが、明治の初め頃から1月に開かれるようになりました。

市の形態も時代とともに変わってきましたが、今でも市街地の近郊の農家で冬の手仕事として作られたひのきがさ、むしろ、しょうけ、おけなどが売られています。



陣屋前朝市



宮川朝市



紙絵馬



二十四日市

3 文化



くるまだ 車田

車田は佐渡と飛騨だけに伝わっている特殊な田植えの方法です。高山では、松之木町で代々、昔ながらの方法が今に伝えられています。車田は、田の中央に杭をたて、そこから7本の線を引き、この線の上に3本の苗を5株ずつ植え、その外側に苗を同心円状に植えていきます。これを七・五・三の田植えともいいます。

昔は、ここで取れた米は伊勢神宮に奉納されたと伝えられています。一説には山の神を迎える田であったといわれています。神聖な田として肥料も下肥は使わず、わらだけを使うようにしています。



車田

はなもち 花餅

雪の深い飛騨では、冬になると広葉樹のほとんどが花や葉を落として枯木のようにになってしまうため、正月の花が無いということで、枯枝に細かく切った餅を付けて飾ります。主にお正月の装飾用として、紅白の花餅が暮れの朝市などで売られています。

江戸時代、正月に餅を農耕の神様にささげるため、枝に餅を巻きつける年中行事があり、予祝儀礼^{よしぐきれい}といって、あらかじめその年の豊作を祝う行事でもあったのですが、それが元になって花餅かざりが始まったとも言われています。



花餅

あきばさま 秋葉様

高山市内には、約60の秋葉様と呼ばれる小さなやしろがあり、人々は火伏^{ひふせ}の神として敬っています。

これは、昔、町が全滅するほどの火災を含めて、100戸以上の家屋を類焼する火災が10数回もありましたが、不思議と秋葉様だけは類焼をまぬがれるということがありました。それで、人々は火災予防や家内安全を願って秋葉様を信仰しています。

また、江戸時代には10組700人の火消組がありました。豪華な衣装や纏^{まとい}が飛騨高山まちの博物館に展示してあります。



秋葉様

高山の方言

アイマチ	…………	怪我のこと	シミル	…………	非常に寒い、凍る
アグム	…………	飽きる	スベラカイ	…………	ツルツル状態
アクレル	…………	ふざけ騒ぐ	スポル	…………	煙で黒くなる
アグルシイ	…………	楽でない	セバイ	…………	狭い
アラソウ	…………	からかう	セビル	…………	ねだる
アンキニ	…………	気楽に	セワシイ	…………	忙しい、騒しい
イキル	…………	蒸し暑くなる	センナラン	…………	しなければならない
イザル	…………	横へ移動する	ソヤソヤセヤセヤ	…………	そうそう、はいはい
イジル	…………	なぶる	タバッテオク	…………	貯えておく
イズマカス	…………	あぐら	タクル	…………	引っぱる
イセキナイ	…………	せっかち	タメラウ	…………	体に気をつける
イナダク	…………	戴く	ダシカン	…………	だめだ
イノカス	…………	動かす	チョコケル	…………	ふざける、おどける
イランコト	…………	余計なこと	ツクネル	…………	積み重ねる
イワラカス	…………	燻す	ツラハラス	…………	すねてふくれる
ウタテー	…………	申し訳ない、有難い	ツメカウ	…………	鍵をかける
エガム	…………	歪む	テキナイ	…………	息苦しい
オソガイ	…………	怖い	デコナル	…………	大きくなる
オゾイ	…………	悪い	ネグサル	…………	腐敗する
オブル	…………	背中に背負う	ノクテイ	…………	暖かい
オワエル	…………	追いかける	ノナラカス	…………	無くする
カケズリマワル	…………	駆け回る	ハシッコイ	…………	すばしっこい
カジケル	…………	寒くて身振いする	ハジカム	…………	手足が凍える
カツエル	…………	飢える	ハバケル	…………	散らかす
カマワントイテ	…………	おかまいなく	ハリコム	…………	意気込む
カヤシコム	…………	転げ落ちる	ハンチクタイ	…………	悔しい、イライラする
ケナルイ	…………	羨しい	フケラカス	…………	見せびらかす
ゲバス	…………	失敗する	ホカル	…………	投げる、捨てる
コギル	…………	値切る	マタジ	…………	片付ける、整理
コゼル	…………	拗(す)ねる	ママヤク	…………	間違いやすい
コツケル	…………	ぶつける	ヤシム	…………	さげすむ
ゴツォ	…………	ご馳走	ヨボル	…………	呼ぶ
サブイ	…………	寒い	ヨワル	…………	困る
シトネル	…………	育てる	ヤクト	…………	わざと

3 文化



④ 代表的な文化施設

飛騨高山まちの博物館

高山の人々は京都や江戸の文化を生活の中に取り入れ、祭屋台や町家に見られるように高山独特の文化を築いてきました。その大きな担い手となったのが高山の町人です。

飛騨高山まちの博物館では、城下町高山の歴史や町人文化、伝統行事、美術工芸などに関する資料を多数展示しています。中には研修室もあり、講義や学習のほか休憩・集合場所としても利用できます（要予約）。町並み散策の拠点となる施設です。

☎ 0577-32-1205 高山市上一之町75
9時～19時 / 無休(臨時休館有) / 無料 / 高山駅から徒歩約15分



飛騨高山まちの博物館

高山陣屋

元は高山城主金森氏の下屋敷の一つでしたが、金森氏が出羽国上ノ山へ国替えされて高山が徳川幕府の直轄地となってからは、江戸から代官や郡代がやってきて、ここに役所をおき、おふれを出したり、年貢を取り立てたりして、飛騨の政治を行いました。この御役所や役宅、年貢米を納めた御蔵などを総称して陣屋と呼びます。

明治時代になってからは、県庁、群役所、支庁、県事務所などとして、地方の役所として使われてきました。郡代・代官所の建物が残っているのは全国でも高山だけです。

☎ 0577-32-0643 高山市八軒町1-5
8時45分～17時(8月は18時まで、11～2月は16時30分まで)
12月29日、31日、1月1日は休館 / 大人440円、高校生以下無料 / 高山駅から徒歩約10分



高山陣屋

日下部民藝館

明治12年に建てられた町家で、豪壮に組み上げられた梁組と広い土間の表現美は、飛騨を代表する町家建築といえます。明治以降の民家としては、隣の吉島家住宅とともに、日本で初めて国の重要文化財に指定されました。日下部家代々の家具調度品や生活用品、美術品が展示されています。

☎ 0577-32-0072 高山市大新町1-52
9時～16時30分(12～2月は16時まで) / 12～2月の毎週火曜日は休館(休日の場合は翌日)
大人500円、小中学生300円 / 高山駅から徒歩約17分



日下部民藝館

高山祭屋台会館

秋の高山祭に曳き出される11台の屋台のうち4台ずつを、年に3回入れ替えて展示しています。高山祭の時しか見られない屋台を見学できる貴重な施設です。また、館内では、屋台の展示のほか、祭行列の様子が再現され、大神輿も展示されています。

☎ 0577-32-5100 高山市桜町178
9時～17時(12～2月は9時～16時30分) / 無休
大人1,000円、高校生600円、小中学生500円 / 高山駅から徒歩約20分



高山祭屋台会館

飛騨の里

豪雪に耐えてきた合掌造りや樽葺き屋根の家屋など、飛騨各地の特色ある古い民家30数棟が移築復元され、昔の農山村風景を形づくる民家の博物館です。各民家では、農山村の生産・生活用具を数多く展示しているほか、わら細工、さしこ、機織りなどの実演・体験や四季折々の年中行事を行ない、飛騨の山国での暮らしぶりを紹介しています。

☎ 0577-34-4711 高山市上岡本町1-590
8時30分～17時 / 無休 / 大人700円、小中学生200円 / 駅から車で約10分



飛騨の里

茅葺き民家(合掌造り)

茅葺き民家は飛騨地方でも特に豪雪地域にあたる旧大野郡白川村・荘川村、旧吉城郡神岡町・宮川村・河合村などに多く見られました。なかでも白川・荘川の茅葺き民家は屋根が合掌した手の形に似ていることから合掌造りと呼ばれています。

飛騨の里では、旧若山家・旧西岡家に代表される合掌造りの建物と、旧吉真家に代表される入母屋造りの建物を公開しています。



茅葺き民家(合掌造り)

樽葺き民家

飛騨の古い民家という、合掌造りが有名ですが、飛騨地方の中央部にあたる高山盆地や国府盆地から南にかけての農家や町家は、樽と呼ばれる板を葺き、石を置いた切妻造りの建物がほとんどを占めました。現代のような製材工具がない時代に、木の特徴を活かした木を裂くという技法で行いました。もちろん瓦もありましたが、当時の瓦は高山の寒冷な気候に合いませんでした。

樽の材料はネズ、サクラ、カラマツ、ナラ、クリを用いました。クリは水に強く腐りにくく、耐久力が強いので屋根を葺くのに適しています。現在、飛騨の里ではクリ材で樽葺きしています。



樽葺き民家

安国寺経蔵

飛騨唯一の国宝建造物です。応永15年(1408)に建立された禅宗様素木造りの簡素な建物で、日本の数少ない国宝経蔵の一つです。

経蔵内にある経本(木版一切経)を納めた八角形の輪蔵は、現存する回転式のものでは日本最古のもので、仏を念じながら八角輪蔵を回転させると、一切経を全部読んだのと同じご利益があると信じられています。



安国寺経蔵

☎ 0577-72-2173 高山市国府町西門前474
要予約 / 拝観料500円 / 高山市街地から車で約30分



輪蔵



4 自然 (各地域の紹介)

① 丹生川地域



にゅうかわ
① 丹生川地域

豊かな自然を生かした観光業が盛んで、夏は乗鞍岳や五色ヶ原の森に、冬はスキー場にたくさんの観光客が訪れます。夏でも涼しい気候を利用して、トマトやホウレンソウの栽培が多く行なわれています。ヘチマのような形をした宿籬かぼちゃは丹生川の特産品です。

乗鞍岳・乗鞍スカイライン

飛騨山脈(北アルプス)の南端に位置し、標高3,026mの剣ヶ峰を主峰とする乗鞍岳は、中部山岳国立公園の特別保護地域に指定されています。特別天然記念物のライチョウや可憐な高山植物など貴重な動植物の宝庫でもあります。乗鞍スカイラインを利用して標高2,702mの畳平までバスで登ることができます。これはバスで登ることのできる日本で一番高い地点です。畳平から歩いて片道約90分の山頂からは北アルプス、御岳山、中央アルプス、南アルプスの大パノラマが展望できます。

☎ 0577-78-2345 (飛騨乗鞍観光協会)
5月15日～10月31日 / 高山市街地から畳平までバスで約80分

乗鞍山麓五色ヶ原の森

乗鞍岳の麓、中部山岳国立公園内に位置する約3,000haの広大な森林地帯で、滝、溪流、池、湿原が点在しています。環境に配慮した整備を心がけており、入山者数の制限を設けています。コースは、尾根や谷を越えて山腹を横切りながら滝を巡る「カモシカコース」、多数の池や湿原や溪流を巡る「シラビソコース」、貴重な原生林が広がる「ゴスワラコース」の3つがあり、8時間かけて専門のガイドと一緒にまわりながら、たっぷり自然を感じることができます。

☎ 0577-79-2280 (五色ヶ原案内センター)
5月下旬～10月下旬 / 高山市街地から案内センターまで車で約40分

② 清見地域



きよみ
② 清見地域

川上川、馬瀬川など美しい清流が流れ、この清流沿いを走る飛騨美濃せせらぎ街道は、春の新緑から秋の紅葉まで四季折々の大自然を満喫できる人気のドライブルートです。流域の渓谷は美しく、せせらぎ渓谷として県立自然公園に指定されています。また、清見では飛騨牛の飼育も盛んに行なわれています。

森林公園おおくら滝

大小の滝やくぐり岩などの奇岩をめぐりながら渓谷沿いを歩いて最上部の大倉滝へと続く遊歩道が整備されています。大倉滝は落差約30mで、その美しさは白竜にも例えられます。渓谷の美しい景色と森林浴が満喫できます。

☎ 0577-68-2338 (ひだ清見観光協会)
高山市街地から車で約20分



乗鞍岳



乗鞍山麓五色ヶ原の森



大倉滝

③ 荘川地域



しょうかわ
③ 荘川地域

冬はとても寒く、最低気温が-25.4度を記録したことがあります。涼しい気候を利用して、標高1,200mのダナ高原では、キャベツやダイコンといった高冷地野菜やソバが栽培されています。荘川を流れる庄川に御母衣ダムが建設された際、湖底に沈んだ集落から移植された2本の老桜は、荘川桜として地域の人々に大切にされています。

荘川桜

樹齢500年あまりの2本の老桜は、御母衣ダムの建設により、湖底に沈む運命にありましたが、桜を愛する人々の手により、世界史上、例を見ない大移植事業を経て、この地に移されたものです。命を救われた桜は、今もこの地から水没したふるさを見守りながら、美しい花を咲かせています。「荘川桜」という名前は、昭和37年にこの桜の木の下で行なわれた水没記念碑除幕の際に命名されました。

また、この荘川桜の移植に心を打たれた、旧国鉄バス名金線の車掌であった佐藤良二氏は、自らがハンドルを握る名古屋から金沢までの道、約266kmを、太平洋と日本海を結ぶ「さくら道」にしようと思ひ、バスの走る沿線の停留所に桜の苗木を植え、この活動は後に映画化されました。

☎ 05769-2-2272 (荘川観光協会)
高山市街地から車で約60分



荘川桜

④ 一之宮地域



いちのみや
④ 一之宮地域

高山市の中心部を流れる宮川は一之宮の位山を源流としています。位山には、高山市の木であるイチイの原生林があり、朝廷に位山のイチイを笏の材料として献上した際、この木が正一位の官位を賜ったことから木はイチイ、山は位山と呼ばれるようになったという説があり、現在でも天皇の即位に際して位山のイチイの笏が献上されています。

臥龍桜

樹齢1,100年あまりの巨木で、もともとは一本の巨桜でしたが、昭和初期に、横に伸びた大枝がその重みで地面に着き、そこから発根・独立し、現在の姿になりました。臥龍桜という名前は、あたかも龍が伏したような枝や幹の様子を目にした大幢寺の道仙和尚により、昭和7年につけられたものです。平成のはじめには、台風などの被害により、枯死の危機に見舞われましたが、大規模な保護・修復活動を行った結果、現在は樹勢も回復し、毎年、美しい花を咲かせるようになりました。

☎ 0577-53-2149 (飛騨一之宮観光協会)
高山市街地から車で約15分



臥龍桜

4 自然 (各地域の紹介)



⑤ 久々野地域



飛騨富士とも呼ばれる標高1,480mの船山が久々野のシンボルです。一之宮の位山と合わせて一帯が県立自然公園に指定されています。また、リンゴ、モモ、ナシなどの果樹栽培が盛んで、たくさんの果樹園があります。秋にはリンゴ狩りができ、人気体験メニューの一つとなっています。

船山

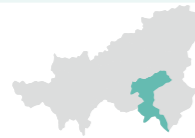
山の形が船底を伏せたような形をしていることから名付けられました。登山道にある展望台からは乗鞍岳をはじめとする飛騨山脈(北アルプス)が望めます。スキー場も整備されており、夏になるとグレンデー一面を約20万本のひまわりが黄色に染めます。

☎ 0577-52-2270 (ひだ桃源郷ぐぐの観光協会)
高山市街地から車で約20分



アルコピアひまわり園

⑥ 朝日地域



地域のほとんどが山林で、昔は木材を川(飛騨川)に流して運搬していました。高原の立地を活かした、高原やキャンプ場があり、多くの人々が訪れます。また、高冷地野菜の栽培に力を入れており、すずらん大根は朝日を代表する高冷地野菜です。他にも、春に採れたよもぎを利用して、よもぎうどん、よもぎカレー、よもぎ五平餅などが作られています。

美女高原

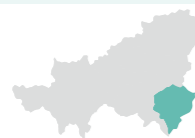
標高830mに位置する美女ヶ池には、大蛇が美女に化けたという美女伝説が残っています。周辺の湿原には、4月下旬に約1万株の水芭蕉が花を咲かせます。ボート、釣りなどで高原のさわやかな空気を満喫できます。

☎ 0577-55-3820 (美女高原管理事務所)
高山市街地から車で約25分



美女高原

⑦ 高根地域



夏でも涼しい気候と標高の高さを利用して飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアが整備されており、夏になると全国から多くのスポーツ選手が高地トレーニングのため訪れます。また、高根で栽培されているトウモロコシはタカネコーンと呼ばれ糖度がメロン並みに高いのが特徴です。

野麦峠

岐阜県と長野県の県境、標高1,672mに位置する野麦峠は、明治・大正時代に、多くの飛騨の若い女性が長野県の製糸工場へ糸引きに通った「女工哀史の峠」として小説や映画の舞台となり、全国的に知られています。県立自然公園にも指定されています。

☎ 0577-59-2409 (野麦峠お助け小屋)
高山市街地から車で約90分



野麦峠

⑧ 国府地域



宮川や荒城川の豊かな水と広い土地を利用して、米作りが盛んに行なわれています。県立自然公園に指定された宇津江四十八滝では四季折々の表情を楽しめます。また、今から約600年前に建てられた安国寺の国宝経蔵、県下最大の石室をもつ古墳や広瀬城跡など、多くの歴史遺産があります。

宇津江四十八滝

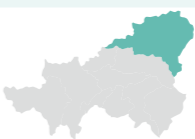
急峻な谷あいには大小無数の滝が連なる県立自然公園。大蛇にまつわる伝説を秘め、流れ続ける滝めぐりが楽しめます。また、園内にある35,000㎡の山野草花園では、5月下旬から8月上旬にかけて順にクリンソウ約15万本、ササユリ約1万本、アジサイ約5千本の花を楽しめます。

☎ 0577-72-3948 (四十八滝総合案内所)
協力金 大人200円、小人100円 / 高山市街地から車で約30分



宇津江四十八滝

⑨ 上宝・奥飛騨温泉郷地域



高山市の東側に連なる北アルプス(飛騨山脈)の玄関口となる地域です。活火山である焼岳の麓には、平湯温泉、福地温泉、新平湯温泉、栃尾温泉、新穂高温泉という5つの温泉地が広がり、ホテルや旅館はたくさんの観光客や登山客で賑わっています。

奥飛騨温泉郷の西に位置する上宝では、山間のせまい土地を利用してブランド米の栽培とトマトやホウレンソウなどの高冷地野菜や、きのこなどのハウス栽培が盛んです。また、奥飛騨温泉郷では山椒やドラゴンフルーツの栽培も行なわれています。

新穂高ロープウェイ

第1・第2ロープウェイを合わせて、全長3,200mあり、日本初の2階建てゴンドラで標高2,156mの高さまで上がることができます。山頂の展望台では、笠ヶ岳や槍・穂高連峰など、北アルプス(飛騨山脈)の山々が目に広がります。

☎ 0578-89-2252 (新穂高ロープウェイ)
8:30~16:00 (12~3月は9:00~15:30)
無休 / 大人3,000円、小人1,500円 / 高山市街地から車で約80分



新穂高ロープウェイ

北アルプス大橋

全長150m高さ70m、新穂高温泉中尾高原と鍋平園地を結ぶ橋。橋からは笠ヶ岳、錫杖岳を望むことができ、ドライブルートとして人気が高いスポットです。例年、5月頃の新緑、10月頃の紅葉の時期にはひととき美しい絶景をお楽しみいただけます。

☎ 0578-86-2111 (上宝支所)
高山市街地から車で約70分



北アルプス大橋

5 産 業



① 観光業

豊かな自然に恵まれ、伝統文化や美しい町並みが現在も大切に受け継がれている高山市には国内外から毎年470万人近くの観光客が訪れます。市内には、ホテル、旅館、民宿などの宿泊施設が約360件あり、観光施設、飲食店、土産物店など観光に関連した仕事にたくさんの市民が従事しており、観光業は高山市の基幹産業となっています。

外国人観光客誘致の取り組み

昭和61年(1986)、全国15地区の1つとして国から国際観光モデル地区の指定を受けたことを契機に国際観光都市として、外国人観光客が一人でも安心して旅行できるように、様々な取り組みを進めてきました。現在、アジアや欧米など世界各地から年間61万人を越える外国人観光客が訪れています。

市内の約40ヶ所に4言語併記の誘導案内板を設置したり、散策マップを12言語で作成しています。他にも高山駅前と古い町並の観光案内所では英語の話せるスタッフが常駐して外国人観光客の対応をしています。また、ホームページは12言語で作成しているほか、海外の旅行博覧会に積極的に出展するなど、海外への情報発信にも早くから力を入れてきました。

フランス・ミシュラン社発行のミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで三ツ星の観光地として紹介されるなど、外国人にも人気の観光地となっています。



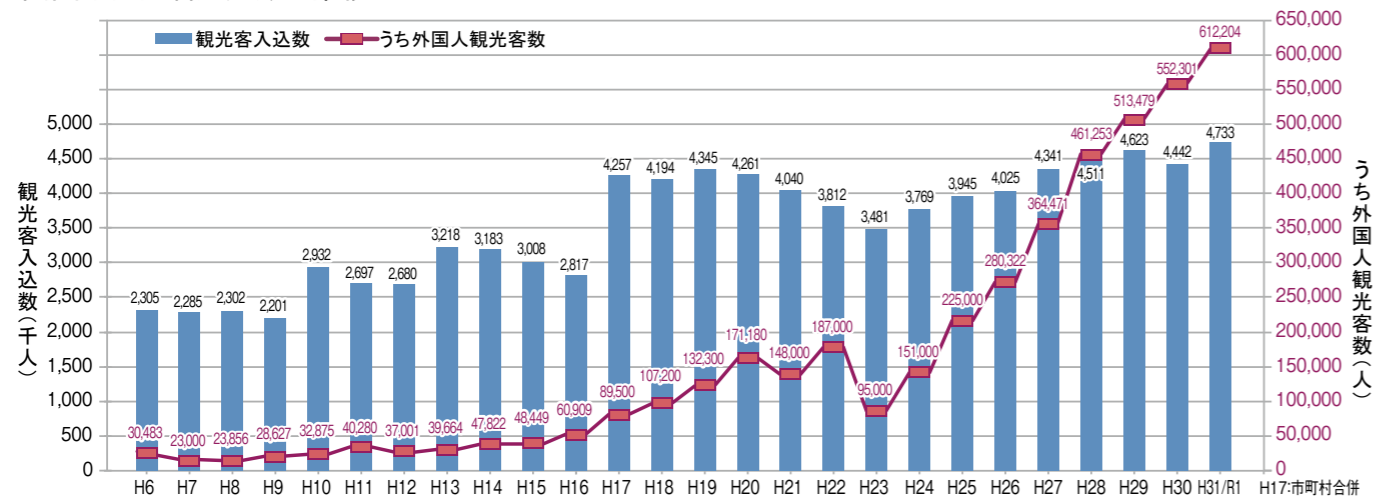
バリアフリーのまちづくり

高山市は、誰もが安全に、安心して、快適に暮らすことのできるユニバーサルデザインの視点に基づいたまちづくりを進めています。少子高齢化が進む中、子どもや高齢の方、障がいのある方など全ての市民が暮らしやすい(住みよい)まちづくりを進めることが、高山市を訪れる観光客にとっても過ごしやすい(行きよい)まちになると考えています。例えば、車いすの方や高齢者の方が通りやすいように道路の段差を解消したり、車いすの車輪や杖が落ち込まないように側溝蓋の整備をしたりしています。他にも車いすの方が利用できるトイレはもちろんのこと、オストメイト対応のトイレ、手すりやオムツ交換台のある多目的トイレの設置などを行っています。

また、観光案内所や市営の駐車場で車いすの貸出を行なっているなど、バリアフリーのまちづくりを進めています。



高山市観光客入込数の推移



② 工業

高山市の工業は、岐阜県や全国と比べて生活関連産業(漬物や味噌などの食品製造や家具製造が含まれる)の比率が高いことが特徴ですが、近年は医薬品や機械器具の比率も高くなっています。

また、飛騨は工芸品や民芸品の宝庫で、国の伝統的工芸品に指定されている飛騨春慶や一位一刀彫のほか、たくさんの手工芸品が岐阜県の郷土工芸品に指定されています。

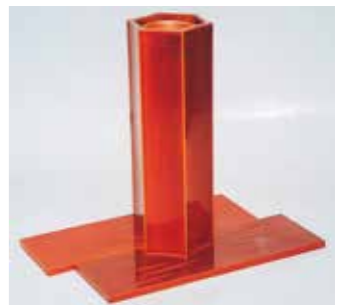
飛騨の家具(平成20年1月「飛騨の家具」「飛騨・高山の家具」として地域団体商標登録)

飛騨の家具製造は、豊富な森林資源と飛騨の匠の技という歴史的・文化的資源を背景に大正9年(1920)に始まりました。90年を超える長い歴史に根ざした高度な技術と、時代を見据えたデザイン力を基礎に、全国の家具生産を牽引する製品を作り出し、国内外で高い評価を得ています。



飛騨春慶(昭和50年2月17日 国の伝統的工芸品に指定)

約400年前、当時の高山城主、金森可重かなもりありしげが盛んに城下に神社仏閣を造営しました。その工事に従事した大工棟梁、高橋喜左衛門たかはしきざえもんが作業中、たまたま打ち割った批目の美しさに心を打たれ、風雅な盆に仕上げました。この盆を御用塗師の成田三右衛門なりたさんえもんが木目を生かして、透漆すまうしで塗り上げたのが飛騨春慶の始まりと伝えられています。花器、盆、膳、器、茶道具などが作られています。



一位一刀彫(昭和50年5月10日 国の伝統的工芸品に指定)

木の国飛騨の象徴である一位の木は、岐阜県の木、高山市の木として指定されています。一位一刀彫は江戸時代末期、高山の松田亮長まつだすけながが、この一位材を用い木目の美しさを生かし、彩色をほどこさない独特の根付彫刻をつくりました。これが一位一刀彫の始まりといわれています。こうした、飛騨の匠の技術は現代に受け継がれております。



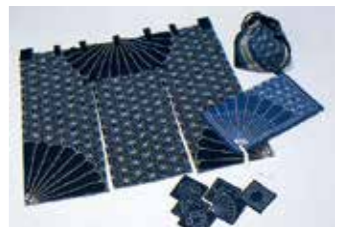
飛騨のさるぼぼ(岐阜県郷土工芸品)

さるぼぼは、飛騨地方の方言で猿の赤ちゃんという意味です。平安時代、宮中では産所のお守りとして天児人形あまがつを置いて、生まれてくる赤ちゃんを守りました。その人形が長い年月を経て、庶民層まで伝わってきたのが飛騨のさるぼぼと考えられています。その後、嫁ぐ娘に母が作って持たせたり、子供のおもちゃとして作られるようになりました。今は、猿にあやかって安産、魔よけ(災いが去る(猿))、夫婦円(猿)満のお守りとされています。



飛騨さしこ(岐阜県郷土工芸品)

弱い布にあて布で補強するという生活の知恵から生まれた工芸品で、藍染めの紺地に白い木綿糸が描く模様は繊細で美しく一針一針刺す事によって色々な模様が出来上がります。ふきん、のれん、巾着袋など様々な製品が作られています。



5 産 業



円空彫 (岐阜県郷土工芸品)

江戸時代に全国を行脚し円空仏と呼ばれるたくさんの木彫りの仏像を残した円空上人の作風を模して作られる仏像です。

小糸焼 (岐阜県郷土工芸品)

寛永年間、金森重頼公が地元の殖産興業のために、兄である金森宗和の斡旋を得て京の陶工を招き、高山市西部の小糸坂に窯を築いたのが始まりです。現在の小糸焼は独特の渋いコバルトブルーが特徴です。

渋草焼 (岐阜県郷土工芸品)

天保12年(1841)、時の郡代豊田藤之進によって企画され、尾張から戸田柳造を招いて始め、苦心の末、磁器をつくることに成功し、数年後には九谷から画工を招き赤絵を付けました。その後衰退し、明治初期に再興しました。磁器(芳国舎)と陶磁器(柳造窯)の2つの窯元があります。

飛騨染 (岐阜県郷土工芸品)

飛騨染は、江戸時代より高山祭と共に発展してきました。もち米粉・米糠から作られるもち糊を筒や型で生地に置き、豆の絞り汁で溶いた数種類の顔料で染付けた後、清水でもち糊を洗い流し、その後、寒風に晒して色の定着・発色を促します。日本古来の技法を今も受け継ぎ、高山祭の衣裳などに使われています。

宮笠(ひのき笠・一位笠) (岐阜県郷土工芸品)

約250年前から野良仕事用に使われていたという日傘の一種です。暑い時は「ヒデ」が乾燥して通気性がよく、雨降りには膨張して雨を遮断する便利さが魅力で、耐用年数が長く、10年以上使用できます。

飛騨高山の有道しゃくし (岐阜県郷土工芸品)

江戸時代から久々野町の有道地区に伝わる木杓子です。朴の木を用い、1本の材料から手作業で作られます。材料のもつ素朴な色合いと、継ぎ目がなく丈夫なこと、すくう部分に独特の彫りを残しているのが特徴です。

小屋名のしょうけ (岐阜県郷土工芸品)

スズ竹を主に、縁どりにマタタビとツタウルシを使用した工芸品で、かつては農家の副業として生産されていたザルです。すべて手作りで、丁寧に作られます。

飛騨高山の紙絵馬 (岐阜県郷土工芸品) ※P13で紹介



③ 農 業

高山市の農業産出額は岐阜県内で1位を誇っています。特にホウレンソウやトマトなど高冷地野菜の生産が盛んで農業産出額の約44%を占めています。また飛騨牛として全国ブランドとなった肉用牛を始めとした畜産が約45%と近年伸びており、米は約7%となっています。

飛騨ホウレンソウ

高冷地の冷涼な気象条件を利用し、春から秋にかけてホウレンソウの栽培が盛んです。ホウレンソウの栽培は昭和40年頃から本格的に始まり、その後、当地で開発された雨除け施設栽培(ビニールハウス)による技術の普及と水田転作により栽培面積が拡大し、現在では延べ面積で約965ha栽培されています。4月から11月まで関西圏、中部圏、首都圏の市場へ出荷されています。

飛騨トマト

高冷地の自然条件を活かした雨除け施設栽培により約133ha栽培され、7月から11月まで出荷が行われています。栽培体系の統一と共同選果場の設置により品質の向上と均一化を図り、ホウレンソウと同様に関西圏、中部圏、首都圏の市場へ出荷されています。

飛騨牛

岐阜県内で14ヶ月以上肥育された黒毛和種の中で一定の基準を満たした牛肉のみに与えられる銘柄です。飛騨牛のおいしさの特徴は、①きめが細かくサシが適当で豊潤な味がする ②肉色が鮮やかである ③無駄な脂肪が付きすぎているなどあげられます。第8回と第9回の全国和牛能力共進会で肉質の日本一に輝きました。



飛騨牛

地域特産物

〈飛騨・美濃伝統野菜〉

- ・飛騨紅かぶ 飛騨を代表する漬物「赤かぶ漬け」の材料
- ・飛騨一本太ねぎ 食す部分が太くやわらかいのが特徴
- ・あきしまささげ まだら模様が特徴でインゲンマメの仲間
- ・飛騨山椒 香辛料の材料として香り高い品質に定評



飛騨紅かぶ

〈その他〉

- ・菌床しいたけ 「飛騨やまっこ」の愛称で主に冬場に栽培
- ・飛騨リンゴ、もも、メロン 高冷地の気候を活かし甘み強い
- ・宿讎かぼちゃ ヘチマに似た形をしたかぼちゃで食味が良い
- ・タカネコーン 高原で栽培され、糖度が高くおいしい
- ・あぶらえ(えごま) 五平餅のたれなどに利用される伝統的な食材

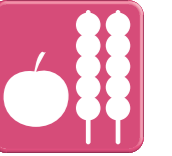


宿讎かぼちゃ

この他にも、温泉熱を利用して栽培される南国の果実ドラゴンフルーツなど、各地域の特色を活かした様々な農産物が生産されています。

※飛騨・美濃伝統野菜…岐阜県が認証する県内で古くから栽培されている特色ある野菜や果樹等

6 郷土の味



■ 朴葉みそ ■

ほおば
朴葉の上に味噌、ねぎ、しいたけなどをのせ、焼きながら食べる朴葉みそは、ご飯にとてもよく合います。平成19年12月には、農林水産省の「農山漁村の郷土料理百選」に選ばれました。



朴葉みそ

■ みたらしだんご ■

高山のみたらしだんごは、あっさりしたしょう油味。米の粉をねって小さな団子にし、5個ずつ竹串にさし、炭火の上で焼きながらしょう油をつけます。きつね色に焦げたしょう油の香ばしい香りが食欲をそそります。



みたらしだんご

■ 駄菓子 ■

寒冷地独特の香味豊かな素材である、くるみ、大麦、大豆、小豆、わらび、とちの実、そばなどを原材料にしてつくられます。素朴な風味をもった、飛騨ならではの銘菓として好評を得ています。



駄菓子

■ 山菜料理・精進料理 ■

高山は山に囲まれ海がないため、山や川の産物である山菜と川魚を材料に使い、工夫をかさねながら山菜料理と精進料理をつくり出しました。

山菜料理は、わらび、ぜんまい、たけのことといった飛騨の豊富な山菜のほか、鮎などの川魚も材料にします。

精進料理は肉や魚を用いず、穀物、野菜、豆腐など植物性の材料だけで作る料理です。

■ 中華そば ■

高山独特の味わいは、あっさりしたしょう油味にちぢれ麺。どこかなつかしい味です。



精進料理

■ 飛騨そば ■

高冷地、飛騨の山間部のそば畑でとれたそばの実を石臼で挽いて打った手打ちそばは格別です。代表的なものは庄川町の庄川そばや高根町の火畑そばです。



中華そば

■ 飛騨の寿司 ■

山国でありながら飛騨は寿司もおいしいのが魅力です。毎日、日本海から運ばれる新鮮な海の幸や飛騨牛を使った寿司が味わえます。

■ 漬物 ■

飛騨独自の赤かぶ漬けなど、野菜の味を活かした素朴な風味と淡白な味が特徴です。



漬物

■ 飛騨山椒 ■

ひださんしょう
奥飛騨でとれた香りの高い山椒は、うなぎ、焼き物、煮物などの引き立て役にピッタリです。

■ 飛騨牛 ■

飛騨の大自然の中で丹精こめて育てられた飛騨牛は、肉質、味ともに絶品です。和食、洋食問わず、ステーキ、しゃぶしゃぶ、すき焼き、焼き肉、串焼き、飛騨牛まんなど様々な料理で味わうことができます。



飛騨牛

■ 酒 ■

高山の酒は江戸中期頃から造られてきました。現在、市内には7軒の造り酒屋があります。高山の酒がおいしいといわれるのは、清らかな水、飛騨でとれた良質の米、寒冷地特有の気候風土など、酒造りの条件がそろっているからです。

造り酒屋の軒下には、酒林(さかばやし) (杉の葉でつくった玉、杉玉とも言う)を吊り下げています。元々は酒の神様に感謝を捧げるものであったと考えられますが、今では造り酒屋のシンボルとなっています。



酒

■ 川魚料理 ■

清流で育った川魚は特有の臭みも少なく、滋味深い味わいがあります。特に、毎年の解禁日を楽しみにしている人が多いのがアユです。市内には、天然アユを提供している飲食店もあり、香り高い風味をお楽しみ頂けます。



川魚



7 体験プログラム



① 農山村体験

高山市では、農家民宿や地元農園などで組織する「一般社団法人ふるさと体験飛騨高山」が、郊外に広がる農村地域や山、川などの自然の中で、農業、自然、生活文化、食文化、環境活動、雪遊びなどの様々な体験ができるプログラムを提供しています。農家民宿に泊まりながら地元の人たちとのふれあいを通して農業や自然の大切さについて学ぶことができます。

農業

- 野菜植え付け
- 野菜収穫
- 田植え
- 稲刈り
- りんご狩り
- ドラゴンフルーツ栽培 など



生活文化

- 陶芸
- 一位細工
- わら細工
- 竹細工
- かんじぎづくり
- 草木染め など



自然

- 森の散策
- 川遊び・魚つかみ
- ナイトハイク
- 砂金取り
- きのこ採り など



環境活動

- 間伐・下刈
- きのこの菌打ち
- 林業体験 など



食文化

- そば打ち
- 五平餅づくり
- おはぎづくり
- アップルパイづくり
- 餅つき
- 豆腐づくり など



体験の講師は、地元農家の方たち。方言まじりの言葉で温かい交流が楽しめます。
お宿は、太い梁や囲炉裏が自慢の農家民宿からおしゃれなペンションまでバリエーション豊かです。
採れたての野菜などを使った真心こもった郷土料理やお宿のお父さんやお母さんとのふれあいは素敵な思い出になるでしょう。

雪遊び

- かまくらづくり
- イグルーづくり
- そり遊び
- スノーハイク など



農山村体験プログラムのお問い合わせ先
一般社団法人ふるさと体験飛騨高山
〒506-2256 岐阜県高山市丹生川町日面73-1
TEL 0577-79-2005
FAX 0577-79-2006
furusato.taiken@gmail.com
<https://www.furusato-taiken.com>

② 各種体験

飛騨の里をはじめ市街地に点在する様々な体験施設において、ものづくりや施設見学などの体験プログラムを提供しています。また、冬になると、市内6ヶ所のスキー場でスキーやスノーボードの研修も行なわれています。

木工

- 家具工場見学 など



スキー

- スキー
- スノーボード
- 雪上クルージング など



味

- 和菓子づくり見学
- せんべい焼
- 飛騨牛乳工場見学
- みたらしだんご など



環境

- リサイクルの手選別
- 下水処理場見学 など



民芸

- さるぼづくり
- フォトフレーム
- マイ箸・マイ箸袋
- 組紐づくり など



修行

- 座禅



自然

- ネイチャークラフト
- スノーシュー
- 乗鞍山麓五色ヶ原の森
- 天体観測施設見学
- 気球キャンプ など



福祉

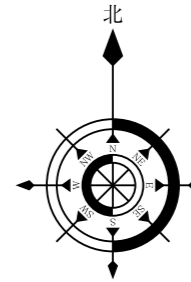
- バリアフリー施設見学
- 障がい者との交流 など



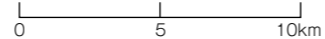


高山市全域図 ACCESS

日本一広い市 **2,177.61km²**
 大阪府や香川県より大きく、東京都とほぼ同じ面積



道路情報	
岐阜県内の高速道、一般道	日本道路交通センター ☎(050)3369-6621
R156、158、257、360、361、472	高山土木事務所 ☎(0577)33-1111
R158、360、471	古川土木事務所 ☎(0577)73-2911
R41	高山国道事務所 ☎(0577)36-3811
鉄道情報	
JR東海テレフォンセンター	☎(050)3772-3910



関東から	
鉄道利用	
東京	東海道新幹線 名古屋 高山本線 高山 (約4時間05分)
東京	北陸新幹線 高山 高山本線 高山 (約3時間38分)
高速バス利用 直行 (要予約)	
新宿	平湯温泉 R158 高山 (約5時間30分)
名古屋	約4時間30分 約1時間 高山
自動車利用	
調布	中央道 松本 R158 平湯温泉 R158 高山 (約4時間20分)
長野	約2時間30分 約1時間 約50分 高山

関西から	
鉄道利用	
大阪	東海道新幹線 名古屋 高山本線 高山 (約3時間10分)
大阪	約50分 約2時間20分 高山
大阪	大阪-高山直通(ワイドビューひだ号) 東海道本線 高山本線 高山 (約4時間15分)
高速バス利用 直行 (要予約)	
金沢	約15分 約55分 約10分 約10分 高山
名古屋	約5時間30分
自動車利用	
豊中	名神高速 東海北陸道 中央道 高山 市街地 (約4時間)
大阪	約2時間 約1時間30分 約20分 約10分 市街地

名古屋(中部国際空港)から	
鉄道利用	
空	名古屋鉄道 名古屋 高山本線 高山 (約3時間)
空	約40分 約2時間20分 高山
鉄道及び高速バス利用 (要予約)	
空	名古屋鉄道 名古屋 高速バス 高山 (約3時間25分)
空	約40分 約2時間45分 高山
自動車利用	
空	知多半島道路 名神高速 高山 市街地 (約3時間)
空	約1時間 約1時間 約1時間 高山

北陸から	
鉄道利用	
高山	高山本線 高山 (約1時間30分)
高山	約1時間30分 高山
高速バス利用 直行 (要予約)	
高山	約1時間20分 約1時間 高山 (約2時間20分)
高山	約1時間20分 約1時間 高山
自動車利用	
高山	R41 高山 (約2時間)
高山	約2時間 高山
金沢	北陸道 用務 高山 市街地 (約1時間50分)
金沢	約1時間 約20分 約20分 約10分 市街地

※所要時間は目安です。ダイヤ等の詳細については各運行会社にご確認ください。